



10・28第6回高校生地球環境論文賞表彰式

最優秀賞は山梨県立市川高2年、岩崎まり子さん

中央大学が主催する「高校生地球環境論文賞」の表彰式が10月28日、多摩キャンパス1406号室で行われた。第6回目となる今回

は、総計134通の応募があり、多数の応募作の中から、山梨県立市川高等学校2年、岩崎まり子さんの「利便性との戦い——アイドリ

ングストップの試み」が最優秀賞に選ばれた。受賞論文は、電車など交通の便が悪く、車がないと生活が難しい山梨県において、どうしたら車を利用しながら地球環境を守れるかをテーマにしている。表彰式には永井和之総

長・学長も出席し、挨拶のあと入賞者一人ひとりに表彰状と副賞を手渡しして功をたたえた。田中廣滋審査委員長は審査経過や選考ポイントに触れながら「レベルの高い論文が多数あった」と講評した。

表彰式が終わると、在学生たちも交えた懇親会が行われた。ケーキに舌鼓を打ちながら、中央大学のキャンパスライフについて質

問する受賞者たち。式での緊張した表情もすっかりリラックスして、学生ガイドによるキャンパスツアーにも参加。中央大学の魅力を十分に堪能した様子だった。

最優秀賞以外の入賞者は次のとおり（敬称略）。

【地球環境レポート賞】

「水保は終わらない」

熊本・八代白百合学園高等学校3年、上野由理

【優秀賞】

「レジ袋削減は本当に必要か」

大分・岩田高等学校1年、貝掛柚香子

「環境と農業との共存を目指す私の挑戦！」

熊本県立鹿本農業高等学校3年、高松正

典▽「海からのメッセージ」

「Think Globally Act in Tabashi」

「薬器と森林のつながり」

「大量発生」

「循環の環」

【学校賞】

高等学校▽福岡県立筑紫丘高等学校▽東京・顕明館高等学校▽東京・帝京高等学

校

モノレール中大駅にも駅ナカが出現!? 中大発の「カリレル」貸本屋プロジェクト

近ごろは駅ナカ・ビジネスが大はやり。JRの主要駅には、駅とは思えないデ

パ地下のようなエリアが誕生している。もつとも、モノレールの駅にそれを望む

のは酷な話だが、中央大学・明星大学駅内に1件のテナントがオープンした。その

名はKARIREL(カリレル)。レンタルビデオならぬレンタルブック、貸本屋だ。

プロジェクト代表は中央大学商学部3年、茶川健二郎(22)さん。「商学部でアントレプレナーシップ(起業家精神)を学んでいる、

秋沢ゼミのプロジェクトとして有志で実施しています。この貸本屋のプラン自体は、一昨年の先輩方が起業コンテストの『ドリームゲート』で優勝した際のプランです。なかなかプランを実現できなかったのですが、それを今回モノレールの駅構内で実現しました。KARIRELのメンバーは中大、慶應大、横国大生の8人だそうです。

——『バカの壁』『人は見た目が9割』といった新書から、大ヒット映画の原作『東京タワー』、就職活動の季節柄『業界研究』といった類のタイトルも目に

入る。大きめの本棚が2つ、約200冊の本が並んでいる。どのよう

な本の回転がよいのだろうか。

「最初は、学生にもっと本を読んで欲しい。新しい価値を提供したいという高尚な理念からビジネス書などを多く揃えていましたが、消費者の求めるニーズとは大きくかけ離れていまし

た(笑)。回転率が一番いいのは、人気マンガの『働きマン』です」と、店番をしていた横浜国立大学経営学部3年の葛野太朗さん(20)は言う。



「カリレル」オープン。円内は茶川さん(左)と葛野さん

言いながら手にとった本にはエントリースートの文字が。本を借りると、足早に多摩センター行きモノレールへと向かっていった。

本を借りる際は、まず住所・氏名・電話番号などを記入して会員登録をする。その後、名刺大のカードと会員規約を渡され、選んだ本を見せ、お金を支払う仕組みだ。一般的なレンタルビデオ店などの

中大生の読書レベルはそんなものなのかと、ヤキモキしながら見ていると、一人の女性が本を手にとった。「初めて本を借ります。そもそも、中大には蔵書

数で私学トップクラスの図書館がある。貸本屋は、ビジネスモデルとして成り立っているのだろうか、お節介ながら気になるところだ。

「10月9日にスタートしてから、平均で1日10人程度の利用がありますね。駅に支払うテナント料や、本を買う初期投資もありますから……まあ、僕たちが運営しているので人件費がないので、どうにかこうにかと」。ビジネスの世界は辛いようだ。

大手私鉄各社に交渉してきたが、反応は思わしくなく、その中で、ちょうどテナントが撤退した多摩モノレールから、趣旨を理解してテナント設置が認められた。

「今回は12月までの実験ですが、ビジネスモデルとしてうまくいくようであれば、継続して事業化を考えたいです。まずは、ニーズの高いマンガ本を中心に、



除幕式のあと、テミス像を背に、寄贈者の千賀弁護士（右から2人目）、彫刻家・堤氏（同4人目）ら

には、千賀氏とテミス像を製作した彫刻家、堤直美氏（日展評議員）を招き、永井和之総長・学長、阿部三郎前理事長らが出席した。当日はホームカミングデーで、真新しい像をバックにOBらが写真を撮りあう光景も

「駿河台に在学中、『青年の像』ができて、狭いキャンパスながらも学生の心の糧になった思いがあります。何か、多摩キャンパス

「公平の精神を」と千賀秀一弁護士が寄贈 多摩キャンパスに正義の女神「テミス像」

多摩キャンパスの目抜き通り、池の上・ヒルトップ前に新しい像が登場した。

ギリシャ神話の正義の女神、「テミス像」だ。昭和41年法学部卒の千賀

修一弁護士（虎ノ門法律経済事務所）から寄贈されたもので、10月22日の除幕式

もう少し品揃えを充実したいと思えます」

クトは始まったばかりだ。モノレールの活性化にも一役買うようなプロジェクト

になるといいですね。（学生記者 滝沢孝祐 Ⅱ 総合政策学部3年）

見られた。

テミス像は高さ1・7メートル、重さは200キロほど。コンクリートの台座を含めると約3メートルの高さになる。

右手には天秤、左手には剣。天秤は「法の公平（衡平）」、剣は「司法の権威の厳しさ（勇氣と正義）」を意味するという。法の理想を擬人化したテミス像は世界中の裁判所で見られ、日本でも最高裁などにある。弁護士バツジも「テミスの天秤」をあしらったデザインだ。

の学生たちに、と思いきしてね」と千賀氏は寄贈の思いを語る。「法」のイメージが強いとはいえ、「テミスにこめられた意味は単に司法に限定されたものではなく、社会の公平、経済の公平、そして家庭の公平などにも通じる。総合大学である中央大学に通う全学生が社会に出てからも『公平』や『正義』を大切にして欲しい、と願っています」と話している。

（学生記者 有路恵Ⅱ 法学部2年）

